



日本共産党  
北茨城市委員会  
磯原町豊田1030-2

毎週 日曜日 発行

市議団  
ニュース

ご相談は  
お気軽に

市議会議員  
福田 明  
43-0468

市議会議員  
鈴木やす子  
42-2462

# 大型店の進出あいつぐ

## 今後も数店が計画

磯原(中郷)ニュータウンの道路沿い

ここ数年、磯原から中郷ニュータウンに通じる道路沿いに大型店の進出があいついでいます。先月、「カワチ薬品」のオープン時は相当な人出でした。

向かい側に衣料品専門店「サロニキ」が進出し、すでに農地転用の申請が農業委員会を通じています。

今後も、いくつかの出店が計画されています。「カワチ」のすぐ北側には「MGM」(パチンコ店)と「ヤマダ電機」で、土地の造成工事が始まっています。その

さらに「ケーズデンキ」の向かいには「ばんどう太郎」(飲食チェーン)と「オートバックス」(自動車用品)が出店予定です。現在の法律では、地元説明会が必要なのは1000m以上で、また飲食店や娯楽施設は説明会が必要で、実際は、実際のオープン時期は定かでない状況です。



「雨情の里音楽祭」  
(市民ふれあいセンター、11月9日)

この間、既存商店街への一段と厳しい影響と同時に、朝夕の出勤時を中心にした交通渋滞が発生するなど新たな課題も起きています。



農業委員会  
が視察研修

北茨城市農業委員会は、このほど山形県鶴岡市(旧

# エコタウンプロジェクト

藤島町)で取り組まれているエコタウンプロジェクトを視察しました。旧藤島町は、人口約14万人の鶴岡市の北東部に位置し、合併前の人口で1万2千人ほどです。平成14年に、有機農業を柱とした資源循環型まちづくりを公約に掲げた町政がスタートし、議会は「人と環境にやさしいまちづくり条例」を制定しました。

合併後も、ひきつづき職員を配置し、エコタウンプロジェクトとして、生活と産業を結びサイクルシテムの構築、生態系を活用した環境保全型農業、消費者と生産者の交流など7つ

の事業をすすめています。同研修に参加した日本共産党の鈴木孝夫委員は、「まちぐるみで有機農業を推進し、農政を前向きに語る担当者の姿が生きています」と語っています。

## 新しいバイパス道路



このほど高萩県土木事務所から、高萩と北茨城市を結ぶ新しい道路計画の報告

がありました。高萩インター線の高萩土木事務所周辺(高萩市下手網地内)と南中郷停車場線のコンビニ店あたり(北茨城市中郷町)を結ぶ、総距離約3・6kmです。道路幅6・5mの二車線、両側歩道付きです。

予定事業費は26億4千万円。2区間に分け、平成19、20年度に詳細設計をし、21年度から着工したい考えです。ちなみに同線は、同時期に予定されている石滝赤浜線(県道高萩境線)の延長線上になります。

## 童謡を暮らしのなかに

北茨城市議会議員  
鈴木やす子

文化の秋、さまざまな催しがおこなわれました。足を運ぶ機会はありませんか。10月の土日には「公民館まつり」が連続し、生涯学習教室や各サークルでの作品展示、演目の披露などにぎわいました。小中学校では「つどい」や「文化祭」。日頃の学習成果を発信する機会でもあります。父母たちの楽しみの一つは、わが子らの合唱や合奏でしょうか。さらに毎年、市内音楽発表会が中学校の持ち回りで開かれています。子どもたちのみずみずしい声を聞くと、こちらも元気をもらえます。

念館では、「雨情をうたう」と銘打ったミニコンサートがありました。連休の3日間に4回のステージ。うち1回だけでしたが、私も地元のコーラスグループの一員として並んで歌わせていただきました。観光バスが着いたときにたくさんの人。県外からのお客さんも多かったようです。なつかしい唱歌に触れることができ、感激し、でもバスの時間がきてしまいい心残りのようすで席を立つ姿もありました。年輩の方にとっては、童謡などを歌ったり聞いたりする場は少ないのかもしれない。いっぽうで、音楽にふれることの多い今の子どもたちが童謡・唱歌をほとんど知らないという事実もあるとか。北茨城市は、雨情の生まれた地。日本の原風景と言葉の美しさを見直したいと思うのです。人の生の声は、人を元気にし、癒す力があります。きれいな声でなくていい、上手でなくてもいい、子どものころ聞き親しんだ童謡の調べを、子どもたちと孫たちと、暮らしのなかで口ずさんでみませんか。